

琴湖*のほとりに

暮らす人々

No.2

豊かな自然に囲まれた自給自足の暮らしと、コミュニティの絆がしっかりと息づいているまち。その魅力を明るくてあったかい琴海人(きんかいびと)を通して描くことをこころみるシリーズ。第二回はやまびこキャンプ場と民宿を営む武内礼子(78)さん。



* 昔大村湾は、「琴湖(キンコ)」もしくは「琴の海(コトノウミ)」と呼ばれていた。名づけの由来は、波の音が琴をつまびいているように聞こえたから、とも。湖のように静かなので京都の「琵琶」湖に對して、とも。長崎市の、西彼杵半島(ニシソノギハントウ)の、大村湾に面した土地が旧琴海町(キンカイチョウ)です。

【写真】山の中を案内してくれる武内さん,2012.11(撮影:平井杏奈)

December 20, 2012

Dear Elly

今は遠く離れてしまったけれど、かつては同じ教室で学んだ志を同じくする友へ。
元気にしてる？私はやっと放浪生活を終え、琴湖のほとりでなんとかやっているよ。
すごくステキな場所だから、手紙を書きたくなりました。
きいてきていて。



のぼってゆけば花の山

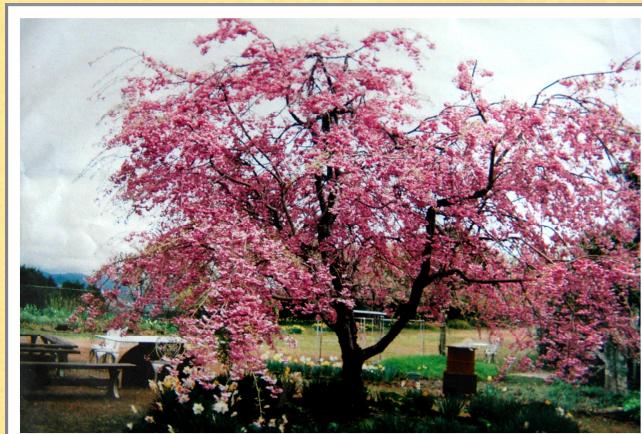
冬は、空気も澄んで。山椿の青空に映えたるはいふべきにもあらず。

春は、萌えいづる。ゼンマイ、タラが芽吹けば水仙が山への入り口を彩る。山桜をみて枝垂れ桜の下で一服。白木蓮が香る。

夏は、咲き誇る。紫陽花^{アジサイ}はさらなり。
石楠花^{シャクナゲ}もなほ。せせらぎたどって歩けば、
ほととぎすの声。

秋は山野草^{ツワブキ}そこかしこに。艶露の花の黄があわれなり。アケビを味見するのもいとおいし。

四季折々の花の山。見るものが途切れる事はない。「里山散策の宿」の一番の見どころは、宿ではなくてまさに山。元華道の先生だという武内さんが、一つ一つの植物の名前と食べ方を教えてくれた。



明誠高校前から県道奥ノ平時津線をのぼってゆくと、左に「キャンプやまびこ」の看板が見える。入っていくと民宿とキャンプ場がある。きちんと手をかけてもらっている山は空気がことにおいしい。隣の家まではかなり遠いのでバーベキューでわいわい騒ぐのもよし、澄んだ空気

【写真上】ゼンマイ,2009,3(撮影；武内礼子)

【写真中】枝垂れ桜,2009,4(撮影；武内礼子)

【写真下】アケビの実,2012,11(撮影；平井杏奈)

で星空観察もよし。なにより花を見ながら山の中を散策していると、耳や頬の皮膚、足の裏、鼻腔の奥と街暮らしで閉じていた感覚が開いていく。あ、あの掘り返してある土はイノシシがいたずらしたんだな。

30年かけて小川を掘る

武内さんは、30年かけて石を拾い、花を植え、樹木を増やし、湿地だった谷底にせせらぎをつくった。蛇行しながら伸びる小川の長さはそろそろ 200m を超えた。

就職で出ていた東京から琴海に帰ってきたとき、この場所に一目ぼれ。街にはなかったおいしい空気と水。山の緑の濃さ。なにより花材が無造作にあちこちに生えているのに驚いた。

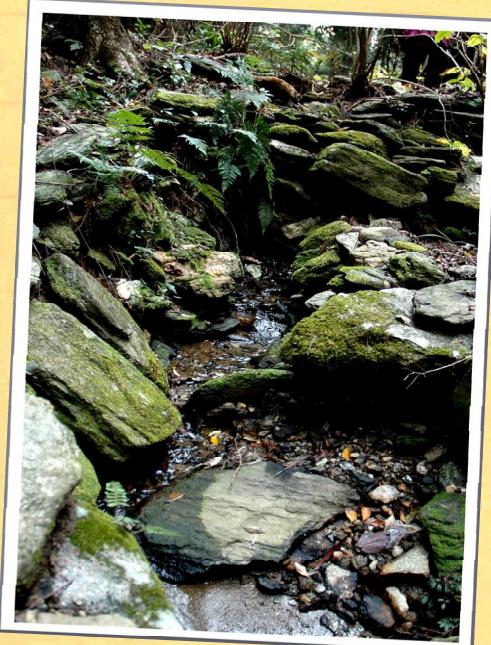
私も覚えがあるが、通常お花のお稽古をするための花材は、フラワーアレンジメントと違って需要が少ないせいか手に入りにくい。アケビ^{ナシテン}だって南天^{ソウ}だって艶^{ブキ}蕗^{ツバキ}だって、花屋さんに前もって頼んで買っておいてもらう。

「まさに宝の山！」と大好きになったこの場所を、せっかくなら多くの人に知ってもらいたいとキャンプ場を始める決心を始めた。幼稚園の子たちが遠足に来て駆け回っていたこともあった。「練習させて」とトランペットの人が泊まりこんでいた時期もあった。小学生になった孫は「ぼくのジャングル」と言いながら、毎年夏になると沢蟹釣りにくるらしい。ご縁があって、最近民泊もはじめた。

もとは戦後の満州引き上げの人たちの開拓山だったそう。^{ヒノキ}檜の林の間にところどころに苔むした石積みが見えるのは、炭焼き窯や畑の石垣の跡ではないかといわれている。

春になつたら山菜摘みにいこう

琴海グリーンツーリズム研究会の主催で、毎年3月末に山菜ツアーをはじめた。春の山をそぞろ歩く。桜を見ながらワラビやゼンマイ、タラを収穫。自給畑からとった無農薬栽培の野菜と、採ったばかりの山菜とを組み合わせて料理する。椿^{リョウ}やタンポポ^{ツバキ}のてんぷらを作ることもある。料理のアクセントという意味と「自然のものもこうすれば飢えないで食べられるよ」と伝えたいという。



【写真】せせらぎ、測ると 215m あった
2012.12(撮影; 平井杏奈)

檜林と雑木林の中はほどよく整備され、足元はふかふかしている。「次はこの山道に沿うように白いアジサイを植えるんよ」とまだまだやりたいことがたくさん。齢七十八ながらしやきしやき歩き、しゃべり、好奇心いっぱい。「私は変わっているけれど、こんな人が一人くらいいてもいいでしょ」とカラカラ笑いながら、今日も花の山を手入れしている。



JR 長崎駅から車で約 40 分。

街から遠すぎず、スーパーだってコンビニだってあるけれど、自然とそれを生かし楽しむ暮らしあんちゅーんと残っている。やっけん（だから＊琴海弁）、そのうち遊びにおいでよ。

のんびり森林浴したいなら、県民の森もいいけれど、武内さんとこの山を見せてもらいに行こうか。近くの赤水公園からの大村湾を望む景色も、ご一ぎ(とても)すてきなんだよ。

*Lots of love
Anna*

文責；長崎市琴海地域おこし協力隊 平井杏奈

【ファミリーキャンプ場やまびこ】

Tel/Fax : 095 (884) 1807

(website) <http://www5b.biglobe.ne.jp/~yamabiko/>

(facebook) <https://www.facebook.com/FamilyCampYamabiko?filter=1>

やまびこ入場料 大人 1200 円 子ども 700 円 ペット無料 *1 泊料金

バンガロー使用料 4 名用 1000 円 20 名用 5000 円

レンタル用品 5 人用テント 500 円～、調理器具、毛布、薪などご相談ください

【里山散策の宿 武内レイ】

長崎市琴海村松町 2359-8 Tel/Fax : 095 (884) 1807

(website) <http://www.kinkait.com/stay/>

一泊と朝食付き 4500 円 一泊と夕朝食体験 5500 円

【琴海グリーンツーリズム研究会】

(website) <http://www.kinkait.com/>

(Email) kinkai.greentourism@gmail.com

【春の山菜採りと山菜料理体験ツアー】

開催時期：3 月中旬～4 月中旬

所要時間：約 3 時間

受け入れ可能人数：最少 2 人、最大 20 人

料金：大人 2500 円／人 小学生 1500 円／人

